

**地域リハビリの充実をめざして！
がん検診の啓発と乳がんの
早期発見をめざして！
中学校給食の取り組みの推進を！**

三田村議員

(1) 福祉保健行政について

① 大村市の健康弱者の方々へのリハビリの取り組みについてお尋ねします。介護保険認定に該当しないリハビリを医療保険で切られた方々への地域リハビリの取り組みについて、大村市のこれからの構想をお尋ねします。

② 近年、がん死亡率は非常に高くなり、がん予防対策は非常に重要であります。がん対策啓発活動の予算の確保についてぜひお願いしたいが、このことについてお尋ねします。

③ 9月議会でも質問しましたが、大村市の乳がん検診率の向上を目指して、初回はいつでも検診を受けることができるように受診方法の改善ができないか再度お尋ねします。また、30代から乳がん発生率が高くなっているため、検診対象をぜひ30歳からにできないかお尋ねします。

(2) 学校給食について

中学校の学校給食について、現在県内では82%の中学校で完全給食が実施されています。そこで、大村市における中学校の学校給食実施について検討はされているのかお尋ねします。

市長

(1) ① 介護保険事業で実施している運動器の向上事業や健康増進事業で実施しているリハビリサロンの充実を図りたい。医療と介護の連携やリハビリの効率的な提供体制の整備については、国へ要望していきたい。

福祉保健部長

② 来年度に向け、県もがんに対しての予算を確保しているということであり、早めに市の状況も伝えて、連携しながら対策に取り組みたい。

市長

③ 婦人がん検診の偶数年齢対応の問題については、今まで全く受診されていない方がすぐ受診できるように改善したい。

福祉保健部長

現在、40歳以上の方に視触診とマンモグラフィ検診を行っているが、まだ30歳まで枠を広げてはいない。ただ、市内に3,500円程度でマンモグラフィ検診をされているところがあり、受けやすい環境づくりをしていただいている。

教育長

(2) 中学校給食の必要性は強く感じている。小学校の調理場が早急な建設を迫られていることや、財政上の問題等のため、小学校調理場建設の後に、中学校給食調理場建設の実現を構想に入れて検討したい。前回の検討委員会から情勢も変化しており、新たな検討委員会の立ち上げも必要ではないかと考えている。

**水資源対策に雨水利用と水源の森の整備が不可欠！
地場産業支援対策について！**

中瀬議員

(1) 雨水利用の先進地墨田区を見習い水資源対策を

視察で訪れた墨田区は雨水対策や利用が驚くほど進んでいた。ダムの水を大事に使うためにも雨水の活用を真剣に考えるべき。また、流れ込む水量を増やすには水源涵養林の積極的な手入れが必要。その費用は現行の期限5カ年の税の他に長期的な視野に立つ水資源税の創設が必要と思う。いかがお考えか？

(2) 地場産業支援対策について

最近の景気の悪化は着実経営の事業所への融資も滞りがち。市当局も金融機関へ協力依頼に回られたと聞くが、ぜひ積極的な支援をお願いしたい。どのような対策をお考えか伺いたい。大手企業は、即影響を受けやすく、特に臨時雇用者への影響は大。中央が風邪引いても、影響を受けない、地元発の将来性のある地場企業の育成と支援が大事と思うがどうお考えか？

市長

(1) 雨水の利用は水資源の有効利用として、速やかに排除していた雨水を貯留及び浸透させることにより、雨水の有効利用と地下水の涵養を行う。散水等

の雑用水として雨水を利用することで節水効果も期待できる。市内に公共施設や一般住宅での雨水貯留及び浸透施設、節水型社会づくりをテーマとして調査研究をしていく庁内協議会を設置した。実施については、来年度から取り組みが、専門的な調査を踏まえ、地下水保全のための方向性を決定したい。

農林水産部長

森林環境税や保安林制度を活用することで、森林所有者に負担をかけることなく手入れの遅れた山林の整備ができるのではないかとと思う。

商工観光部長

(2) 本年6月から約60件の市内製造業事業者を訪問し調査を行った。それぞれ独自の技術やノウハウを生かして業績を伸ばされている。様々な話の中で、新製品の開発等に取り組み意志はあるが、日々を乗り越えることで精いっぱいであるとか、人材の育成や確保が課題であるといった意見が聞かれた。これらの調査結果を踏まえ、人材確保、雇用対策などの面を含め、現行の制度を見直し、より利用しやすい有効な新制度を具体的に検討している。

(その他の質問事項)

- ・西九州リゾート構想を視野に入れた観光施設や史跡の整備について
- ・指定管理者制度のあり方
- ・都市計画道路